七福神めぐりとは?

「七福神」めぐりは江戸時代、庶民の間で大ブームとなったもので、福を呼ぶ神様 7 カ所を巡礼することで、「七難即滅・七福即生」、つまり 7 つの災いから逃れ 7 つの福徳が授かるといわれています。訪れた寺社で福絵馬や朱印を集める風習は江戸時代からあり、身近な娯楽として親しまれていたようです。

古くから港町として栄えた兵庫津は、西国街道の要所でもあり、陸路や海路を通じてたくさんの神様がここに集まったといわれています。

西国街道と兵庫津

西国街道は、古代には山陽道といわれ、日本の中心であった都と朝鮮半島との玄関口であった九州の太宰府とを結ぶ一番重要な幹線道路として発展してきました。その後、近世には、畿内と西国(九州の小倉)を結ぶ道としてにぎわいを見せていました。

街道の道筋自体は変わってしまったものの、西国街道の周辺には、昔の雰囲気をしのばせる神社や仏閣、そして道標(みちしるべ)が残っています。

西国街道は、須磨・長田方面から現在の JR 兵庫駅の北を通り、西柳原町の柳原蛭子神社と福海寺に挟まれる位置辺りで兵庫の町に入りました。

そして、札場の辻で直角に曲がって湊町に至り、ここで兵庫の町を出た後、現在の元町通につながっていました。

今もその名残である「柳原惣門跡の碑」と「湊口惣門跡の碑」が兵庫津の道に残っています。

湊口惣門跡の碑

Ⓔ 柳原天神社 やなぎわらてんじんじゃ

須磨の綱敷天満宮などとともに、菅原道真ゆかりの神社のひとつです。延喜元年(901)2月、道真は左遷先である太宰府への途次、暴風雨を避けるため和田岬に一時上陸したといわれ、彼の死後、所縁の地である兵庫に太宰府安楽寺から分霊をうけてまつったのがはじまりと伝えられています。鎌倉時代には、時宗の僧他阿がこの神社の傍らに満福寺を建立し、この寺の僧侶が奉仕していましたが、明治初年の神仏分離によって独立しました。

Ⓕ 柳原蛭子神社 やなぎわらひるこじんじゃ

創建された年代はわかっていませんが、兵庫の地で福の神として古くから崇敬されてきた神社のひとつです。現在では「柳原のえべっさん」とよばれて親しまれ、毎年1月9～11日にかけて行われる「十日戎大祭」には、商売繁盛や福徳円満を願ってたくさんの人々が参詣に訪れます。また境内の傍らには、西国街道から兵庫に入る西の玄関口であった「柳原惣門」をしのばせる碑が立っています。

Ⓖ 福海寺 ふくかいじ

福海寺は釈迦如来を本尊とする禅宗南禅寺派の寺院で、建武年中(1334～35)に足利尊氏が在庵円有に開かせたといわれています。もとは二本松(JR兵庫駅の西)にありましたが、嘉吉の乱(1441～43)で焼失し、現在の位置に移ったと伝えられています。現在では大黒天をまつり、毎年1月9～11日には「大黒祭」が催され、向かいの柳原蛭子神社とともに参詣客でにぎわいます。

コース案内

史跡を巡りながら、港町兵庫の歴史に思いをはせる。

兵庫のまちは古くから港町として知られ、平清盛の時代には宋との、足利義満の時代には明との貿易で栄え、江戸時代には国内有数の港町として栄えました。

「兵庫津の道」はこのような歴史を持つ兵庫区の史跡を結ぶ道の愛称です。

このコースでは、その中でも江戸時代に庶民の間でブームとなった七福神めぐりを紹介します。

Ⓐ 和田神社 わだじんじゃ

神代の昔、蛭子大神が淡路から和田岬に上陸したといわれ、承安3年(1173)には平清盛がこの地に安芸の宮島より市杵嶋姫大神を勧請しています。万治元年(1658)には武庫川の氾濫によって、「岡田宮」のご神体が和田岬に漂着したことから、尼崎藩主青山幸利は大社殿を造営しました。和田神社は海の守り神として崇敬され、境内には知多半島を拠点として江戸と兵庫を結んだ尾州廻船の船主や江戸と兵庫の商人たちが奉納した常夜灯などが残されています。

Ⓑ 薬仙寺 やくせんじ

薬仙寺は天平18年(746)に行基が開いたと伝えられる寺院です。元弘3年(1333)、後醍醐天皇が配流先の隠岐を脱出し、福厳寺に身を寄せたおりに、薬水を献上したことから薬仙寺の名を賜ったとも伝えられています。もとは天台宗でしたが、延文元年(1356)、住僧真如は念仏修行に訪れていた時宗の僧国阿の門弟になり、時宗に改宗しました。本尊の薬師如来坐像は国の重要文化財に指定されており、境内には平清盛が後白河法皇を幽閉したといわれる「萱の御所」跡の碑などがあります。

Ⓒ 真光寺 しんこうじ

真光寺は、時宗の開祖である一遍が亡くなった場所に建立された寺院です。かつて、この寺の東側には須佐の入江と呼ばれる入海が広がっていました。一遍は「おどり念仏」と呼ばれる布教方法で、全国を遍歴したことで知られ、正応2年(1289)に兵庫観音堂(現・真光寺)で51歳の生涯を閉じています。境内に残る一遍の廟所は県の史跡に指定されているほか、南北朝時代に再建されたと思われる石造五輪塔も県の重要文化財に指定されています。

Ⓓ 能福寺 のうふくじ

能福寺は、延暦24年(805)に最澄が自作の薬師如来像を安置して、日本初の教化霊場にしたことにはじまるといわれる天台宗の寺院です。ここには日本三大仏の一つである兵庫大仏がありましたが、戦時中の金属供出で台座だけが残されました。現在見られるのは、平成3年(1991)に再建されたものです。また境内には、ジョセフ・ヒコ(浜田彦蔵)が英文で寺の由来を説明した碑や神戸事件で切腹した滝善三郎の供養碑など、多くの史跡があります。

豆知識

●大輪田橋の星座とカタツムリ

大輪田橋は大正13年6月に完成し、神戸港の前身である「大輪田泊」にちなんで名付けられ、神戸大空襲と阪神・淡路大震災を経た貴重な遺産です。

被害を受けた親柱を復興し、その上に1月(震災)と3月(戦災)の星座をかたどった照明装置がついたモニュメントとして再生されています。この星座には、発光ダイオードが埋め込まれており、夜は赤色に輝きます。

また、橋には青銅製の“カタツムリ”が這っています。これは「カタツムリ」はきれいな空気と水のある場所にしか生息しないことから、願いをこめて取り付けられています。

●摂津八部郡福原庄兵庫津絵図 元禄9年(1696)

岡方名主を勤めた正直屋に伝えられたもので、兵庫津を描いた現存する最古の絵図です。裏面には、兵庫奉行坂田又右衛門の命によって、兵庫南仲町の絵師紺屋安右衛門という人物が描いたことが記されています。

この絵図の町場の部分は現在の地図と合わせるとほぼ一致するほどの精度があります。

個人蔵・神戸市立博物館寄託

●兵庫城から兵庫県庁へのうつりかわり

兵庫城は天正8年(1580)の池田恒興によって築造された城です。

元和3年(1617)に兵庫が尼崎藩領となると、この地には同藩の陣屋がおかれました。そして明和6年(1769)に幕府領となってからは勤番所が設けられ、大坂町奉行所から与力や同心が派遣されました。

慶応4年(1868)5月23日、後に初代内閣総理大臣となる伊藤博文が初代兵庫県知事に任命され、この地には兵庫県庁が設置されています。

その後県庁は、同年9月18日に現在の神戸地方裁判所の場所に、さらに明治6年(1873)5月に現在地に移転します。

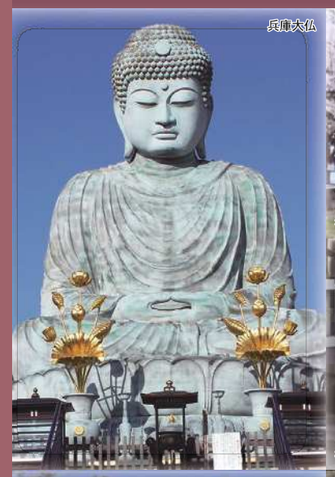
初代県庁跡には、神戸で最初の学校である明親館がつくられました。明親館は現在の明親小学校にその名を残しています。

「神戸古今の姿」(勤番所絵図)
兵庫県公館県政資料館提供

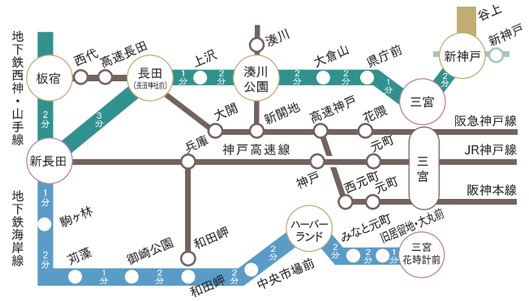
兵庫区歴史さんぽ道シリーズ

兵庫津の道

兵庫七福神を訪ねて



■コース周辺鉄道路線案内



● 本コースの最寄り駅 ●

- ●JR「兵庫駅」(JR「三ノ宮駅」より約7分)
- ●市営地下鉄海岸線「和田岬駅」(「三宮・花時計前駅」より約10分)
- ●市バス3系統「和田岬」(市バス「湊川公園西口」より約15分)

発　行／神戸市兵庫区役所
協力／神戸市教育委員会
平成26年3月発行(令和6年3月改訂)

KOBE CITY of DESIGN

リサイクル適性Ⓐ この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

この散策マップは、古紙配合再生紙を使用しています。

兵庫津の道

兵庫七福神を訪ねて

MAP

兵庫七福神スタンプラリー

★は日本遺産認定の関連史跡があります。

Ⓐ 和田神社（わだじんじゃ）【弁財天（べんざいてん）】

Ⓑ 薬仙寺（やくせんじ）【寿老人（じゅろうじん）】

Ⓒ 真光寺（しんこうじ）【福禄寿（ふくろくじゅ）】

Ⓓ 能福寺（のうふくじ）【毘沙門天（びしゃもんてん）】

Ⓔ 柳原天神社（やなぎわらてんじんじゃ）【布袋（ほてい）】

Ⓕ 柳原蛭子神社（やなぎわらひるこじんじゃ）【蛭子（えびす）】

Ⓖ 福海寺（ふくかいじ）【大黒天（だいこくてん）】

コース付近のみどころ

清盛塚・琵琶塚（きよもりづか・びわづか） MAP ❶

「清盛塚」と呼ばれる石造十三重塔は、弘安9年（1286）に建てられた供養塔で、昭和50年（1975）に兵庫県の重要文化財に指定されています。この塔の下には平清盛の遺骨が納められているという説がありましたが、大正12年（1923）、市電道路の拡幅工事のため「琵琶塚」のある現在地へ移転された際に行われた発掘調査で、清盛の墓ではないことが明らかになりました。「琵琶塚」は、平家物語にも登場する琵琶の名手・平経正（たいらのつねまさ）が琵琶とともに埋葬されたという伝承から、「琵琶塚」とよばれています。また、傍らには昭和43年（1968）に建てられた平清盛像もあります。

柳原惣門跡の碑（やなぎわらそうもんあとのひ） MAP ❷

柳原惣門は、西国街道から兵庫の町に出入する西の玄関口でした。近年の発掘調査で、元禄9年（1696）に作成された絵図とほぼ一致する場所から惣門の跡が発見されています。また惣門を入って直ぐの場所にある柳原蛭子神社（やなぎわらひるこじんじゃ）の脇には明治維新まで高札を掲げる札場がありました。

兵庫城跡（ひょうごじょうあと）

（新川運河キャナルプロムナード内） MAP ❸

天正8年（1580）に池田恒興（いけだつねおき）が花隈城を落城させ、翌年その石垣などで築いたのが兵庫城です。恒興は兵庫城を中心に城下町を整備し、町の周囲を土塁と堀で囲いました。江戸時代には支配の変遷に伴って、尼崎藩の陣屋、大坂町奉行所の兵庫勤番所が、明治初年には最初の兵庫県庁がこの地に置かれています。

周辺情報

◆ 新開地 ◆

BIGMAN

「新開地」は明治38年（1905）に旧湊川の付替えにより生まれ、平成17年（2005）に100年を迎えました。瞬く間に芝居小屋や活動写真小屋などが建ち並び、大正2年（1912）には東京の帝国劇場を模した「聚楽館（じゅらくかん）」が建設され、神戸の文化の中心となりました。その後も数多くの映画館が開館し、「東の浅草、西の新開地」と称されて大変にぎわいました。映画評論家として活躍した淀川長治（よどがわながはる）氏はこの地をこよなく愛し、また昭和11年（1936）には喜劇王チャールズ・チャップリンも訪れています。現在でも、新開地商店街やその周辺には個性的なお店や映画館、神戸で唯一の大衆演劇の劇場などがあり、三宮や元町とは一味違う「B面の神戸」としての魅力を発信しています。

まちには帽子をかぶった男をモチーフにしたシンボルゲート「BIGMAN」や「新開地アートひろば（旧神戸アートビレッジセンター）」などが建てられ、平成30年7月には、昼は上方落語の定席があり、幅広く楽しむことができる演芸場「神戸新開地・喜楽館」がオープンしました。「兵庫津の道」を歩いた後は食事やショッピング、観劇や映画鑑賞などに足をのばしてみてはいかがでしょうか。

【JR「神戸駅」から徒歩約10分、神戸高速線「新開地駅」下車すぐ】